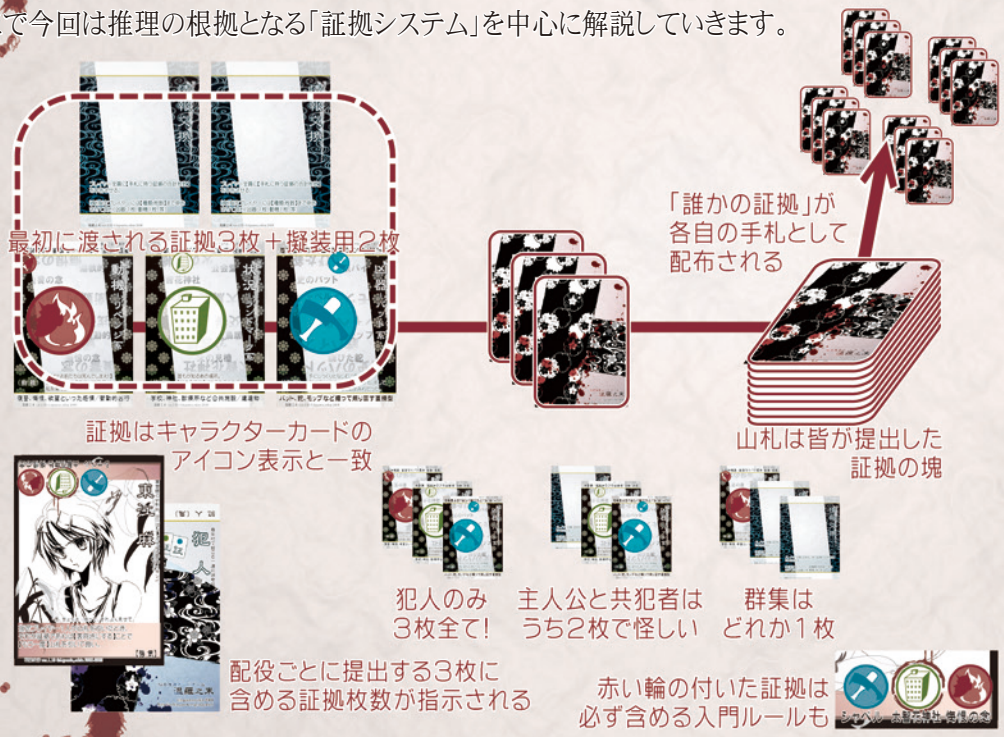
推理のセオリー Theory

伝奇推理カードゲーム
温羅之末

「温羅之末」には「推理」と「騙し合い」、2つの要素があります。
「騙し合い」を制するため、先んじて相手の正体を「推理」出来なければ相手陣営に好きなように騙され陥れられるか、時間切れで全員が村人にxxxされてしまうのを待つか、どちらかです。

そこで今回は推理の根拠となる「証拠システム」を中心に解説していきます。



1）手札と山札の正体を知る

ゲーム開始前、「担当キャラクターに一致する証拠3枚」と「配役（主人公や犯人）」が配布されます。この証拠3枚のうち「配役に指定された枚数」だけ裏向きに提出し、まとめて山札を作成、そこから全員に手札が配布されます。

ここで注目すべきことは2点。

・手札として配布されたのは（そして山札に残っているのは）「誰かの証拠」である

・「犯人」のみが山札に「3枚の証拠」を提出している

※「主人公」や「共犯者」は2枚の証拠を提出しているのでかなり怪しく＝犯人っぽく見えます

仮に、手札にAさんの証拠3枚全て揃っていたら、Aさん＝犯人?と推測できますね。

2）重複という罠を知る

これで終われば簡単なのですが、システムには「疑心暗鬼」を誘導する罠があって、あるキャラクターに一致する証拠は、別のキャラクターと一部重複しているのです。

「Aさんの証拠3枚来たかと思ったけど、この1枚はBさんが山札に提出した証拠かも!?」

重複を考慮しつつ、自分が見た証拠に該当する人物を確かめていきます。

「この証拠はAさんとBさんに一致」「これは自分かAさんの証拠だけど自分は入れてない」
「これはAさんのみ」「・・・Aさんに一致する証拠が多いかも」

このように、手元の証拠を手がかりに3枚一致している人物＝犯人を突き止めますが、重複部分の疑念を潰す必要があります。

3）確認方法を知る

（手札のそれとは別に）証拠の存在を確認できれば、片方はAさんの入れた証拠、もう片方はBさんの証拠なのでこれでAさんが「犯人」だと確定できます。

※もちろんCさん以降のキャラクターと証拠がかぶっていないことが前提です

ではどうやって確認するのか、自分の目で存在を確かめるのか。3つの方法があります。

1つ目。山札を引く。
最もオーソドックスで、どのルールでも有効な方法です。
投票により支持を得たり、アクションカードにより「捜査権」を獲得できれば、（証拠の塊である）「山札」から1枚引いて手札を増やせます。

2つ目。場に置かれた証拠を見る。
「証拠を突きつける＝相手のキャラクターカードの前に3枚とも並べて置く」ことで、復讐に狂う村人たちにその相手を「犯人」だと示し脱落させることができます。
その為に「誰かが場に置いた証拠」、それを見て推理を進めます。

3つ目。切り札／スキルを使用する。
アクションカードの他、拡張ルールでは手札にある「切り札カード」やキャラクター固有の「スキル」を使用して手札を覗き見たり、覗き見に便乗したり、カード交換しあったり・・・。

プレイヤーが担当するキャラクターは、全て「疑いを持つが故に集められた容疑者」です。
村人たちは「犯人」たちに家族や知人を殺され、あるいは策謀により自ら手にかけてしまい、もはやその狂気や復讐心を止める術はありません。

温羅之末は連続猟奇殺人を扱ったホラー作品です。

即ち、プレイヤーたちが「犯人誰だよ?」「お前ら証拠出せよ」「分かんねーよ」とやってるのは、B級ホラー映画における全滅フラグそのものなのです。
故に、疑りあって「手のうちは明かしたくない」と、結局何もできずに時間切れを迎え、全員揃って村人たちにxxされる結末も本筋の一つとして楽しんで頂ければ幸いです。

©Aquaria,cobin 2008-2012　http://cobin.peewee.jp/aquaria/